

山中 修 在ブラジル日本国大使館公使挨拶
日本人ブラジル移住110周年特別式典
2018年8月27日、於：上院本会議場

エリオ・ジョゼ上院議員
上院議員各位、ご列席の皆様

日本人ブラジル移住110周年に当たる本年、連邦上院において特別式典が開催されることを光栄に思います。特に、開催にあたり御尽力頂きましたエリオ・ジョゼ上院議員及び同議員事務所の皆様に、深く御礼申し上げます。

歴史を振り返ると、110年前、最初の日本人移住者がサントス港に到着しました。移住者は、多くの困難に直面しつつも、常に真摯に励み、彼らの子孫は、今日の伯社会の重要な一員となるに至りました。現在、伯における日系社会は約190万を数えます。彼らが伯の発展に貢献し、現在も様々な分野で活躍していることを誇りに思います。また、日本国内には約18万人の伯人コミュニティがあります。こうした人々が人的絆となり、日伯両国は伝統的な友好関係を構築しています。

近年の両国は、ナショナル・プロジェクトと呼ばれる様々な大規模事業を共に実施してきました。セハード農業開発、製鉄のウジミナス、パルプのセニブラ、造船のイシブラス、アルミニウムのアルブラス、鉄鉱石のカラジャス開発などが挙げられます。また、我が国政府は、伯の都市インフラ、地上デジタル放送、防災対策などにも協力してきました。治安面でも、連邦政府や地方政府と連携し、伯全土で地域警察(交番)制度の導入を進めてきました。科学技術分野でも様々な協力が行われています。二国間関係の協力に加えて、国際場裡においても、例えば、国連改革、気候変動、環境、軍縮などの分野で、両国は協力関係を深めてきています。

このような協力関係のめざましい発展に加えて、二国間の要人往来も活発化しています。2015年には外交関係樹立120周年を記念し、ブラジル全土で約500件の記念事業が実施されました。この年、秋篠宮同妃両殿下も訪伯され、伯の皆様大変暖かく歓迎頂きました。

2016年には、8月に安倍総理がリオ五輪閉会式に参加した後、10月にはミシェル・テメル大統領が伯大統領として11年ぶりに日本を公式訪問されま

した。日伯首脳会談では、「戦略的グローバル・パートナーシップ」を将来に向けて更に強化していくことの重要性が確認されました。

2017年には、世界に先駆け、5月にジャパンハウスがサンパウロに開館しました。開所式には、テメル大統領やヌネス外務大臣、本日も列席の下院議員の方々を含め、多くの方に出席頂きました。日本からは、日伯国会議員連盟会長の麻生副総理が訪伯し、開所式に出席しました。ジャパンハウスは、サンパウロの新しい文化的アイコンとなり、現代の日本の姿や多様な魅力を、伯、そして中南米全体に、積極的に発信しているところです。

日本人移住110周年を記念する本年に入り、3月には、ブラジリア開催の世界水フォーラム御臨席のため、皇太子殿下が訪伯されました。4月には、日本の参議院議長の招待により、オリヴェイラ上院議長が日本を訪問されました。続いて、5月にはヌネス外務大臣が訪日され、東京で日伯外務会談が行われました。その直後の5月20日には河野外務大臣がサンパウロを訪問して政策スピーチを行い、今後、国際場裡において、伯を含む中南米諸国とより緊密に協力していく意思を表明しました。

そして、先月(7月)には、日本人移住110周年記念のハイライトとして、眞子内親王殿下が訪伯され、約2週間にわたり、のべ5州14市を訪問されました。御来伯に際しては、各地の日系社会と接点を持たれ、移住に際しての苦勞をねぎらわれ、また、移住者の皆様が両国関係の発展のために長く尽力されてきたことに対して、御礼が述べられました。

在ブラジル大使館としましても、こうした要人往来の流れを捉えて、また、移住110周年という日伯関係における重要な節目に、両国関係を更に強化していく所存です。本日、その決意を連邦上院議会において改めて表明し、私の挨拶とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。(了)